

登呂遺跡発見 80 周年記念

国際シンポジウム

# 日韓における史跡の 整備と活用の今後

— 登呂遺跡・韓国松菊里遺跡を例に —

3  
2024

16

静岡市立登呂博物館



# 日韓における史跡の整備と活用の今後

— 登呂遺跡・韓国松菊里遺跡を例に —

開催日：令和6（2024）年3月16日（土）

主催：静岡市立登呂博物館（静岡市観光交流文化局文化財課）

後援：静岡大学人文社会科学部

静岡大学人文社会科学部アジア研究センター

静岡大学サステナビリティセンター

静岡大学登呂農耕文化研究所

会場：静岡市立登呂博物館 1 階 登呂交流ホール

## プログラム

基調講演：山田 昌久（東京都立大学大学教育センター特任教授／静岡大学客員教授）

「遺跡公園の活用事業を充実させるのは遺跡博物館の継続的な研究活動である」

基調報告：李 基星（イ・ギソン）（韓国伝統文化大学教授）

「韓国青銅器時代研究と松菊里遺跡の意義」

朴 炳旭（パク・ビョンウク）（韓国扶余郡庁文化財課 学藝研究士）

「松菊里遺跡の調査成果と整備及び活用」

篠原 和大（静岡大学人文社会科学部教授）

「弥生時代研究と登呂遺跡の意義」

岡村 渉（静岡市観光交流文化局次長）

「登呂遺跡の整備と活用」

パネルディスカッション：

「東アジアにおける稲作文化の研究と史跡の活用」

パネラー／山田 昌久、李 基星、朴 炳旭、篠原 和大、岡村 渉

## ごあいさつ

特別史跡登呂遺跡は、昭和 18（1943）年に発見され、令和 5（2023）年に 80 年目を迎えました。登呂遺跡は、数十回に及ぶ発掘調査の成果をもとに、約 2000 年前の弥生時代の稲作を中心とする集落の居住域や水田域が復元整備されました。この 80 年という長い月日の中で先人たちの登呂遺跡に対する様々な想いが紡がれ、現在の史跡の姿に結びついています。

現在、登呂遺跡では、「史実に基づく復元整備」や「生きた生活体験」などの整備理念のもと、観光や教育、地域イベントなどの多様な活用につなげ、その歴史的価値や魅力を発信しているところです。また近年は静岡大学の協力のもと弥生時代の農耕に関わる実証実験を行うための研究フィールドとしても活用され、登呂遺跡の本質的価値である「稲作文化」の実態が鮮明になりつつあります。そして昨年には「稲作文化」という東アジア共通のテーマを通して、韓国の稲作農耕社会の遺跡として名高い松菊里遺跡との交流の機会をいただき、今回の国際シンポジウムを開催する運びとなりました。

今回のシンポジウムでは、韓国、日本の考古学者、両遺跡の整備や活用を担当した学芸員の方々をお招きし、これまでの松菊里遺跡と登呂遺跡の調査・研究の成果、史跡としての整備の経緯と保存・活用の実情、そして両遺跡の交流の展望などについて、報告や意見交換を行います。

このシンポジウムの開催が、両国の遺跡の新たな価値や魅力の創造と発信の好機になり、さらには両国の文化財、そしてそれを取り巻く社会の発展につながることを期待します。

令和 6 年 3 月 静岡市立登呂博物館

## 【例言】

◎本リーフレットは、登呂遺跡発見 80 周年を記念する国際シンポジウムの資料集です。

◎上記国際シンポジウムは、令和 6 年 2 月 23 日から 5 月 12 日にかけて開催された企画展「古代の稲作と実験考古学（主催：静岡市立登呂博物館）」の関連イベントとして実施しました。

表紙写真：（上）松菊里遺跡遠景 / 韓国忠清南道扶余郡 （下）登呂遺跡遠景 / 日本静岡県静岡市  
裏表紙写真：（上）松菊里遺跡遠景（左）松菊里遺跡再現遺構  
（右）登呂遺跡復元建物 （下）登呂遺跡空撮（発見 80 周年田んぼアート）